

お薬は正しく飲めていますか？

お薬を正しく飲むために薬剤師がお手伝いします

薬があまったり不足したりすることはありませんか？「クスリ」は逆から読むと「リスク」(危険)になります。どんなに効果的なお薬でも服用法を正しく守らず、飲み忘れたり飲み間違えたりすると、治療効果が上がらないだけでなく副作用が生じたりする場合があります。



意外と守られていないお薬の飲み方

ある調査によると、約8割の患者さんが「きちんと服薬できている」と考えている一方で、飲み忘れは7割以上の患者さんが経験していますし、4人に1人は飲む量を自分の判断で調節したことがあると答えています。また、6割以上の方がお薬を飲むことを途中で止めたことがあると答えています。その理由は①医師の指示に対する間違った理解、②薬の量が多い、③飲み方が難しい、④薬の味が悪い、⑤副作用が怖いなど様々です。



治療に参加する気持ちでお薬を飲みましょう！

なぜ、患者さんが自分の判断でお薬の飲み方を変えてしまうのでしょうか？

このことについて様々な研究がなされました。その結論は、患者さんが「お薬の効果や副作用について十分に理解せずに、医師の指示を守る」という受身の考え方では限界があり、「自分の病気の状態や治療の目的、使用するお薬について理解した上で、自主的にお薬を飲む」という姿勢が必要だということでした。

医師や看護師、薬剤師などに自分の病気を任せるのではなく、患者さんが治療に積極的に参加して、病に打ち勝つという気持ちでお薬を飲むことが重要です。



お薬についての理解と納得を薬剤師がお手伝いします！

「先生に説明を受けただけよくわからなかった。」、「この薬は飲みにくいけど何か方法はあるの。」「この薬にはどんな副作用があるの？」など、お薬について聞きたいことや飲むことの妨げになっていることがあったら、なんでも薬剤師にお尋ねください。薬剤師は、病棟や1階の調剤室(薬渡し口)にいます。患者さんに飲んでお薬の効果や飲み方、副作用を説明し、飲む理由を納得していただき、正しくお薬が飲めるようにお手伝いします。

♪ お問い合わせ 薬剤科 ♪
♪ ご希望の方はご自由にお持ちください。♪

今月の医療

～こんな治療・検査をご存じですか

【前立腺肥大症と尿路結石症に対する

ホルミニウム・ヤグ・レーザー治療について — 泌尿器科 —】

当院では約2年前からホルミニウム・ヤグ・レーザー（以下HYレーザー）による前立腺肥大症と尿路結石症に対する治療を行っています。HYレーザーは到達進度が水中で0.4mmと短いため、臓器の穿孔※1を起こしにくい長所があります。また、組織を蒸散※2させやすいために、組織の切開力※3が高いことや、結石も蒸散で粉碎出来ることも優れた点であります。

※1穿孔：穴があくこと。※2蒸散：水分が体表から水蒸気として排出される現象のこと。

※3切開力：切り開く力のこと。

HYレーザーは光ファイバー内を進みます。目には見えませんが、誘導光として赤いネオン・レーザーを用い（図1参照）、赤いビームを前立腺切開部や尿路結石に当てて場所を決め、HYレーザーを発射します。

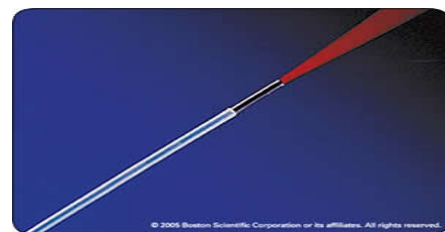
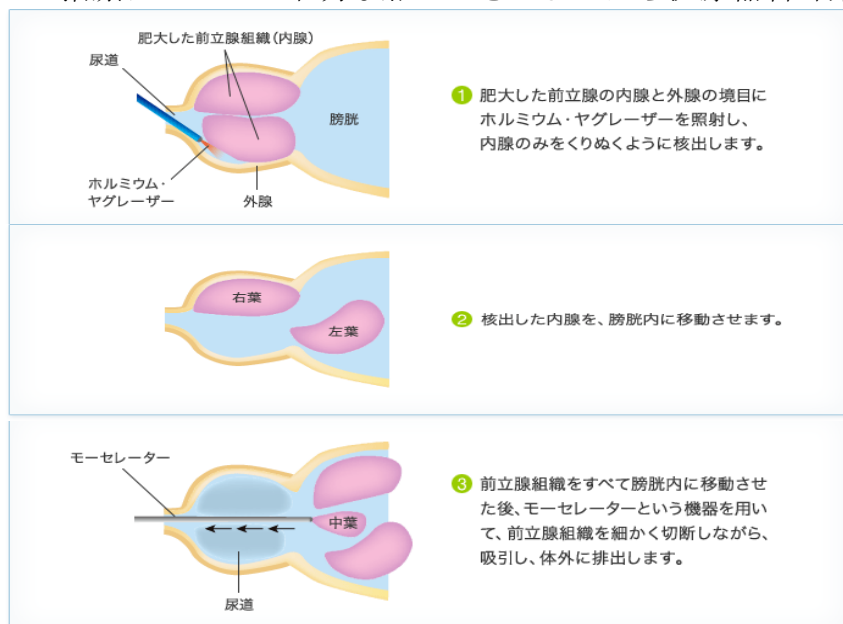


図1 HYレーザー

尿路結石（尿管結石、腎結石）の治療は、体外衝撃波（ESWL）を用いた破砕がこれまで中心でしたが、最近では尿道から挿入した尿管鏡とレーザーを用いた砕石が1回での成功率の高さにより、多く行われるようになりました。これをTUL（経尿道的砕石術）と言います。手術は腰椎麻酔で行うため数日の入院となります。

前立腺肥大症に対しては、図2に示される様に、尿道から入れた内視鏡を見ながら、レーザーで前立腺の瘤をくりぬき、モーセレーターで細分化して体外に吸引して前立腺の瘤を取り出します。以前は開腹していた様な大きな前立腺肥大症でも、出血が少なく内視鏡手術ができるようになりました。1週間程度の入院が必要です。

治療についてご不明な点がございましたら泌尿器科外来までお問い合わせください。



泌尿器科部長 北原 聡史

11月発行分より【今月の医療～こんな治療・検査をご存知ですか～】というテーマに基づき、各診療科より患者さんへお伝えしたいことを載せるようにいたしました。当院の診療科内でこの治療・検査について知りたいという要望がございましたら地域医療連携室までお問い合わせください。

図2 前立腺肥大症の治療の流れ